

「うにの碑」お披露目

うに甚100周年 古川薫さん碑文

うに加工品製造販売の老舗、うに基本舗（幸町）の創業100周年を記念した石碑「うにの碑」が、中之町の亀山八幡宮境内に建立された。17日に除幕式があり、下関在住の直木賞作家、古川薫さんや中尾友昭市長、上田玲子社長ら約50人が祝った。



石碑は青石製の高さ1・2メートル、幅1・1メートルで境内の「ふくの像」のそばに建立。古川さんが「うぶすなの神の潮路や六連雲丹」との碑文を寄せた。高さ30センチの座は、ウニをアルコール漬けた「瓶詰うに」発祥の地とされる市内の六連島の石を使った。

よると、ウニを長期保存するアルコール漬の加工技術は明治期に六連島で開花し、創業者がその加工技術を学んだという。

山口新聞（平成27年11月18日）

「うにの碑」が完成

下関 亀山八幡宮で除幕式



石碑の除幕をした上田社長（右）

関係者ら建立を祝う

アルコール漬けウニ加工販売会社「うに基本舗」（下関市幸町）が創業100周年を記念して「うにの碑」を建立し17日、下関

市の亀山八幡宮で除幕式があった。同社の上田玲子社長や直木賞作家の古川薫さん、中尾友昭市長らが出席した。【仲田力行】

うに基本舗は1914（大正3）年に上田社長の義理の祖父甚五郎が創業した。甚五郎は16歳の時、外国人船員が持ち込んだ洋酒をウニにかけたことがきっかけでアルコール漬け加工技術を確立した六連島のウニ業者、城戸久七に弟子入りしたという。その際に学んだ技術は、うに基本舗に現在も受け継がれている。

石碑は高さ1・20メートル、幅1・10メートル。六連島で採取した石の上に建つ。埋め込まれた銅板には、古川さんが書いた「うぶすなの神の

除幕式で古川さんは「六連島のウニは、神から賜った海の幸である。六連島のウニを発祥とするうに甚の創業100周年を記念する碑が亀山の神域に建立されたことを祝福したい」とあいさつ。上田社長は「初心を忘れず今まで頑張ってきた。お客様に感謝し、下関の発展のためこれからも尽くしていきたい」と語った。

「水産業発展を」の碑にうに

アルコール漬け発祥の下関に建立



上基本舗の田玲子社長（右から2人目）＝下関市
うにの碑の除幕をする

アルコール漬けウニ発祥の地・下関市の亀山八幡宮で17日、「うにの碑」の除幕式があった。同市のウニの加工販売会社「うに基本舗」の創業100周年を記念して建立されたもので、参列者は下関の水産業の発展を祈った。

除幕式では、うに基本舗の上田玲子社長が「感謝の気持ちでいっぱい。（亀山八幡宮にある）フグの碑と

ウニの碑が並んで、海峡の街・下関を見守っていた。きたいと念じております」とあいさつした。碑は高さ150センチ（礎石含む）、幅110センチ。直木賞作家の古川薫さんが「うぶすなの神の潮路や六連雲丹」と撰文を寄せている。

同社によると、下関でアルコール漬けウニができたのは明治初期までさかのぼる。諸説あるが、六連島の

西教寺を訪れた外国人船員が酒宴を開いた時、生ウニが入った小鉢にアルコール度の高い洋酒を過ってこぼし、それを口に含むとおいしかったことが起源とされる。西教寺の庫裏には、オランダ・アムステルダムの子会社の刻印がある洋酒のボトルが残っているという。

当時はウニの保存方法が塩漬けしかなかったが、アルコール漬けにすることで保存期間が飛躍的に延びた。これを知った六連島一のウニ業者の城戸久七が研究を重ねてアルコール漬け加工の製法を確立。城戸に弟子入りした「うに基本舗」創業の上田基五郎が加工技術の「秘法」を受け継ぎ、大正3（1914）年の創業から守り続けてきた。

除幕式後、上田社長は「お客様あつての100周年です。これからも初心を忘れずに謙虚に仕事を続けていきたい」と話した。

（白石昌幸）

朝日新聞（平成27年11月18日）

うにの碑建立50人祝う

亀山八幡宮 古川薫さんも出席



ら古川さん（左）する除幕

加工品「瓶詰ウニ」発祥の地とされる下関市で17日、「うにの碑」の除幕式が行われた。関係者や直木賞作家・古川薫さん（90）ら約50人が出席し、建立を祝

った。

亀山八幡宮境内に建てられた石碑は高さ1・5メートル、幅1・1メートル。六連島周辺で育つウニをイメージして古川さんが記した碑文「うぶ

すなの神の潮路や六連雲丹」と、市在住のデザイナーナナ三戸光顯さん（69）が描いたウニの絵を入れた陶板をはめ込んでいる。

アルコール漬けウニの伝統製法を守る製造会社「うに基本舗」が創業100周年を記念して建立。「並んで、海峡のまち・下関を末永く見守ってくれたら」との願いから、「ふくの像」がある境内を設置場所に選び、八幡宮の協力を得て実現した。

式では、古川さんや中尾友昭市長ら6人がテープカット。上田玲子社長（81）は「初心を忘れず、お客に感謝しながら、下関の発展のために頑張りたい」と話した。

読売新聞（平成27年11月18日）